

関東昆虫学研究会 第 1 回大会プログラム

日時 2017 年 11 月 19 日(日)

12:55～18:05

(懇親会 18:30～20:00)

会場 玉川大学 大学教育棟 2014 521 教室

大会次第

12:55～13:00 開会 大会長 小野正人

13:00～17:45 一般講演

1. トゲアシヒメハナバチの採餌と燃料調節

原野健一(玉川大・ミツバチ科学)

2. セイヨウミツバチワーカーのタンパク質摂取による脳内アミン量への影響

○北島裕紀・堀内彩加・佐々木謙(玉川大・農)

3. ミツバチ雄における幼若ホルモンによるドーパミン, オクトパミン合成酵素遺伝子発現への影響

○渡邊智大・佐々木謙(玉川大・農)

4. ヤマヨツボシオオアリの女王数とワーカーの脳内アミン量との関係

○浅川大喜・佐々木謙(玉川大・農)

5. コクヌストモドキの死にまね系統間におけるインスリン・チロシン関連遺伝子の発現比較

○日ノ澤祥悟(玉川大・農)、宮竹貴久(岡山大・農)、佐々木謙(玉川大・農)

6. イチモンジカメノコハムシの新奇の防御形質の発達過程:後胚発生に注目して

○落合美穂・宮崎智史(玉川大・農)

(14:30—14:45 休憩)

7. クロマルハナバチのオスにおける性成熟とドーパミンの関係

佐藤絵(玉川大・院・農)

8. スズメバチ属に対して忌避効果をもつ物質の生物検定法について

○山崎浩史・小野正人(玉川大・院・農)

9. キアシナガバチにおけるドリフトワーカーによる産卵の確認

○西村正和・小野正人(玉川大・院・農)

10. 環境変化が引き起こすヤマトシジミ(鱗翅目、シジミチョウ科)の斑紋変化と進化

○岩田大生(東京農大・国際農業)・檜山充樹(中央大・人間総合理工)・大瀧丈二(琉球大・理)

11. 多摩地域南部の里地里山に出現するトンボ目成虫の季節変化 ①谷戸水田における個体群動態

○齋藤優正・岩見徳雄・田口正男(明星大・理工)

12. 多摩地域南部の里地里山に出現するトンボ目成虫の季節変化 ②谷戸のビオトープにおける個体群動態

○南部克寛・岩見徳雄・田口正男(明星大・理工)

(16:15—16:30 休憩)

13. トタテグモ下目における脚部の棘と巣内の歩行の関連性
長野宏紀(東京農大・昆虫)
14. 日本産オオホシカメムシ属(カメムシ目:オオホシカメムシ科)の分類学的研究
相馬純(東京農大・昆虫)
15. 日本産アカガネサルハムシの亜種分類の再検討
○重藤裕彬・林本真幸(東京農大・昆虫)
16. 日本産 *Cladius* 属の分類学的研究—特に *Priophorus* 亜属について(ハチ目:ハバチ科:ヒゲナガハバチ亜科)
加藤優羽(東京農大・昆虫)
17. 日本産 *Proclitus* 属(ヒメバチ科ハエヒメバチ亜科) の分類学的検討
渡辺恭平(神奈川県博)

17:45~18:00 総会

18:00~18:05 閉会 研究会幹事 原野健一

18:30~20:00 懇親会 (会場:鳥貴族 玉川学園前店)

○大会参加費 500 円・懇親会費 4,500 円(学生 3,500 円:学生証をご提示ください)は当日受付で徴収いたします。

○車での入構はできません。

○懇親会は、収容人数の都合上、先着 40 名様までとさせていただきます。

○学内の食堂・売店は休日のため閉店しております。

○玉川大学へは、小田急線「玉川学園前」駅でお降りください。駅から大会会場までは、徒歩 5 分ほどかかりますので、余裕を持ってお越しください。

講演をされる方へ

○講演 12 分間、質疑応答 3 分間の計 15 分です(1 鈴 10 分, 2 鈴 12 分, 終鈴 15 分)。タイトなスケジュールのためご協力をお願いします。

○パソコン、液晶プロジェクター、レーザーポインターを用意しています(Windows のみ、Microsoft Power Point 2016 以下のバージョンで講演ファイルを作成し、650MB の CD-R もしくは USB メモリーに保存して下さい)。

○その他は大会事務局にお問い合わせ下さい。

大会事務局 原野健一 Email: kharano@lab.tamagawa.ac.jp